

今月の

5冊



デザインから考える障害者福祉 ミシンと砂時計

海老田大五朗＝著

本体1800円＋税

ラグーナ出版 ☎099-219-9750

「障害者が働けるか働けないかは、工夫や設計次第、つまりデザイン次第である」という視点から始まる本書は、障害者とその家族・地域との関わり、作業空間と時間、道具、組織など、「障害者と働く現場」の声をひろい上げ、デザインをキーワードに「実践的な論理」を記述していく。共生社会におけるこれからの障害者雇用、教育、社会福祉を志す人に。

身体拘束ゼロの認知症医療・ケア

山口晴保、田中志子＝監修

本体1600円＋税

照林社 ☎03-5689-7377



医療・介護においては身体拘束をしないのが原則であるが、カテーテルの自己抜去や転倒など、生命に直結するリスク回避のためには不可避という考えもある。本書では「どうしたら身体拘束はなくなるか」という課題に対して、実践に基づく具体的なテクニックを、「点滴抜去」「帰宅願望」「徘徊」などの場面別に紹介する。

「聞こえにくい」をほっとかない

Check your hearing!

小川郁＝著

本体900円＋税

日本看護協会出版会 ☎0436-23-3271



加齢性難聴への早期対応は、認知機能の低下抑制とQOLの向上、社会的孤立防止の一助となる。本書では、最新の聴覚トレーニング・ケアの知識や、聞こえにくさを抱える人とのコミュニケーションのとり方、加齢性難聴に対する社会的支援の情報などを紹介。介護・看護の現場で働く人だけでなく、家族にとっても役立つ情報が満載。

障害者の自立生活を支援する 福祉の旅路

川島美行＝著

本体1300円＋税

幻冬舎メディアコンサルティング ☎03-5411-6440



脳性麻痺を患いながらも、35年間に渡り「障害者の自立生活」を支援し続け、「障害者が自分らしい生き方ができること」をテーマに福祉事業家として活動の幅を広げてきた筆者は、身体の状態悪化や環境の変化をくり抜けながら、さらなる前進を続けている。力強い筆者のルーツや思索から、多くのことを学べるはず。

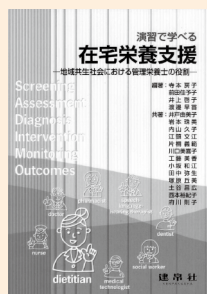
演習で学べる在宅栄養支援

地域共生社会における管理栄養士の役割

寺本房子、前田佳子、井上啓子、ほか＝編著

本体2500円＋税

建帛社 ☎03-3944-2611



在宅栄養支援を行う際に必要となる基本的な知識や理論を、各専門家が分かりやすく説明したテキスト。在宅の現場で出会うさまざまな要支援者・要介護者を理解するための視点や知識を解説するとともに、具体的なスキルの習得につながる演習事例を掲載。在宅栄養ケアを実践している人にも役立つ1冊。